

●当院の臨床研修の特色

津軽地方における基幹医療施設として18診療科を標榜し、専門医療施設として機能付与された「がん診療」と「成育医療」を柱とし、「エイズ治療」の専門的かつ高度な医療を展開しています。また、「二次救急医療」を担っているほか、看護学校を併設すると共に、近隣養成施設等の実習生を受け入れ、医療教育にも力を注いでいます。

第一線病院であるところから、プライマリーケアから高度医療まで万遍なく学べ、症例も豊富です。指導医も臨床で鍛え抜かれた力量を持つ医師がそろい、教育においても研修医の意見を取り入れ指導にあたっています。

■プログラム紹介（参考：平成29年度開始プログラム）

●プログラム名／プログラム責任者：国立病院機構弘前病院プログラム／石黒 陽
●研修スケジュール 募集人数8名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内 科						救 急			選択必修	選択必修	選 択
2年次	地域医療	選 択										

●協力型病院名（科目）

国立病院機構仙台医療センター（腫瘍内科、総合診療科（内分泌・代謝内科）、神経内科、感染症内科、緩和ケア内科、救急科）	
弘前市立病院（内科、外科、小児科、整形外科、臨床病理）	弘前愛成会病院（精神科）
国民健康保険黒石病院（内科、外科、小児科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科）	
弘前大学医学部附属病院（全科）	津軽保健生活協同組合健生病院（救急科）

他3施設

●協力施設

保健所（青森県内6ヶ所）	国立病院機構青森病院	国立療養所松丘保養園
清明会鳴海病院	芳真会梅村病院	弘前愛成園
知的障害児通園施設 弘前大清水学園	知的障害児通園施設 弘前大清水学園	

他13施設

■教育体制

◇教育管理委員長：小田桐 弘毅（副院長）	◇院内感染予防研修
◇プログラム責任者：石黒 陽（臨床研究部長）	◇各種院内研修会
◇臨床病理検討会（CPC）	◇国立病院機構主催の研修会
◇部検数：2回	◇図書室：有り
◇緩和ケア研修会	◇研修医専用机：有り
◇NST勉強会	◇インターネット：有り（研修医専用机、図書室）
◇教育セミナー	

■メッセージ

●指導医から一言

当院は弘前市・津軽地域二次救急輪番を担当しており、救急外来患者が年間5,000名。そのうち小児科で1,300件受け入れている。また、母子センター・NICUが設置されていて、周産期について豊富な経験ができる病院であり、ユニセフ・WHO「赤ちゃんとやさしい病院」に認定されている。消化器内視鏡検査は年間2,300件行われていて、それに伴い消化器癌の手術が年間100例行われている。外科では2年前から乳癌手術が増加し、年間約70例となった。その他の特色としては、近隣の病院では数少ない呼吸器科が置かれていて、気管支鏡検査の症例が多く、呼吸器診療の研修も充実している。

当院ではプライマリーケアの学習の場としてほぼすべての診療科で充実した研修が可能であるのみならず、研修医定数が少なく、マンツーマンの指導が受けられることも特徴の一つである。

●先輩研修医から一言

研修医にとって臨床研修に一番求めるものといえば、臨床症例の豊富さと指導医からの手厚い指導ではないでしょうか。国立病院機構弘前病院ではそのどちらも備わっており充実した二年間を過ごすことができると思います。病院の規模としてはそれほど大きい病院ではないですが、地域の中核病院として日々様々な患者さんが受診されるためいろいろな症例を目の当たりにすることができます。また、指定の臨床研修医数がそれほど多くないため指導医の先生からほぼマンツーマンの指導を受けることができ、どんどん手技もやらせてもらえます。実際の現場で自分で考えて動ける医師を目指して皆さんも一緒に頑張りましょう！

■病院理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います。

■診療内容

●診療の特徴、実績

- ◇18診療科を標榜する急性期疾患の総合病院である。
- ◇母子医療センター（NICU）を中心に成育医療に実績がある。
- ◇平成19年7月ユニセフ／WHO赤ちゃんとやさしい病院『BabyFriendlyHospital』
- ◇専門医療施設として機能付与された「がん診療」と「成育医療」を柱とし、「エイズ治療」の専門的かつ高度な医療を展開している。
- ◇津軽地域第二次救急輪番病院として内科・外科・小児科を中心に多数の症例を扱っている

●診療科・医師数

診療科名	循内	呼	消・血内	小	外	整	皮	泌	産	眼	放	麻	病理	合計
医師数	1	4	7	5	5	4	2	1	5	1	1	2	1	39
指導医数	1	2	3	4	4	2	1	0	2	1	1	2	1	24

- 許可病床数：342床（一般342床）
- 入院患者数（1日平均）：230.7名
- 外来患者数（1日平均）：500.4名
- 平均在院日数（一般病床）：14.1日
- 分娩件数：758件
- 救急医療の提供実績：救急告示病院、弘前第二次救急輪番病院（内科系、外科系）、津軽地域小児救急医療体制二次輪番病院、内科系、外科系、小児科の輪番病院として、全科で救急患者を受け入れています。

- 医療法上の位置づけ：2次医療機関
- 救急取扱件数：5,203件
- 救急車取扱件数：1,087件
- 救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】490,000円（月額、手当・税込）、7,500,000円（年額、賞与・手当・税込）
【2年次】490,000円（月額、手当・税込）、7,800,000円（年額、賞与・手当・税込）
- 研修医に対する各種保険等の適用：社会保険、厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】無 【個人加入】有
- 宿舍の有無：無 ※相談に応じます（アパート月額賃料当院負担）
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】有 7時45分～19時（月～土曜日）
【その他】育児休業、育児短時間勤務、育児時間等の制度有り

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：8名
- 応募資格：平成29年度医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類：(1)履歴書 (2)応募用紙（当院ホームページよりダウンロード可）
- 試験内容：面接
- 申込締切日：平成29年8月中旬頃予定
- 試験実施日：平成29年8月下旬頃予定

■現在の研修状況と進路

- 研修中的人数：1年次 2名 うち女性 1名
2年次 3名 うち女性 1名
- 研修医の主な出身大学：弘前大学
- 当直回数（月平均）：4回（当直は1年次の10月以降開始）
- 研修終了後の進路：該当無し
- 後期研修プログラムの有無：有（呼吸器、消化器・血液内科、小児科、整形外科、麻酔科、産婦人科）

■申し込み、問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構 弘前病院
管理課

036-8545 青森県弘前市大字富野町1番地
TEL 0172-32-4311 FAX 0172-33-8614
E-mail rinken2@hosp.go.jp

●当院の臨床研修の特色

研修医に問います。「どの診療科が一番力がついたと感じたか」答えは夜のERですと。不夜城の八戸ERには常に救急専従医師が2-3名、救急専従看護師が4-6名で、当直研修医を見守ります。ERは紹介状なし患者がほとんどなので、病歴聴取と身体所見、そして緊急処置は研修医の出番です。自ら手袋をして、腰椎穿刺、動脈採血を行います。一日平均4回出動するドクターカーには、ドクターカー外傷講習会を終えてから指導医と一緒に乗ります。聴診器しかない病院の外での診療は観察力を高めます。研修医当直は週1回程度です。1年目は23時まで、2年目は朝までの当直です。研修医の最大関心の気管挿管は人形で120回、麻酔科研修で80回できます。挿管困難時の対応法指導もします。人気の消化器内科では内視鏡、循環器内科ではC Vの経験ができます。外科では針糸縫合がうまくなった気になります。手術の助手をすると外科医に憧れます。がん化学療法を勉強してから患者の受け持ちをします。年間1400件の分娩数を誇る産婦人科は、なんと帝王切開の術者を経験できます。NICUと小児科は同じ医師団で診察するので、一度に研修できお得です。地域医療は山間僻地と離島から選べます。座学は月2回のペースで計画され、一コマ30分なので眠くなりません。給料は45万円と十分なので車を買えます。地元大学卒業生は多くはなく、全国から研修医が集まる五つ星研修病院です。募集は19名で、新専門医制度に対応しています。

■プログラム紹介（参考：平成29年度開始プログラム）

- プログラム名／プログラム責任者：八戸市立市民病院卒後臨床研修プログラム／今 明秀
- 研修スケジュール 募集人数17名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	初エテ-ンシ	内科					救命救急		麻酔科				
2年次	外科			小児科	精神科	産婦人科	地域医療	救命救急	自由選択				

- プログラム名／プログラム責任者：八戸市立市民病院卒後臨床研修産婦人科プログラム／會田 剛史
- 研修スケジュール 募集人数2名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	初エテ-ンシ	内科					救命救急		麻酔科				
2年次	外科			小児科	精神科	地域医療	産婦人科	救命救急	自由選択				

●協力型病院名（科目）

東北大学病院（血液内科・腎臓内科・形成外科・小児科・小児外科）	弘前大学医学部付属病院（血液内科・腎臓内科）
---------------------------------	------------------------

●協力施設

国民健康保険 南部町医療センター	下北医療センター 国保大間病院	三戸町国民健康保険 三戸中央病院
隠岐広域連合立 隠岐病院	六ヶ所村 地域家庭医療センター	国立病院機構 八戸病院
国民健康保険 おいらせ病院	瀬戸内徳洲会病院	他5施設

■教育体制

採用すぐには、先輩研修医にぴったりくっつくシャドーイングから始まります。最初の4か月は病棟業務に専念してもらうためにER当直には入りません。一つの診療科を2名の研修医で回り、お互いに励ましながらの研修が始まります。二次救命処置、外傷講習会、気管挿管講習会、CV講習会、ステロイド講習会、胸部X線講習会を終えてから、初めてのER当直が始まります。下血がERに運ばれてくると、消化器を回っている研修医とその指導医がERで診療し内視鏡室へ連れて行きます。急性腹症が運ばれてくると、外科を回っている研修医とその指導医がERで診療し手術室へ患者を導きます。病理解剖は年間20～40体あるので、解剖のムンテラを覚えられます。解剖室では術衣を着てメスを持って解剖に参加します。職員が研修医に優しいです。

■メッセージ

●指導医から一言

座学が充実している都市部の有名病院、手技がやり放題の田舎の病院、ERは研修医中心でという放任主義の病院、各専門科が充実している大病院、それらと比べてほしい。なぜ、日本の北端の病院にこれだけ全国から研修医が集まっているのか。どうして研修医たちは、寝不足なのに目を輝かせているのか。なぜ市民病院なのに、ドクターヘリ1機とドクターカー3台を持っているのか。なぜ患者は研修医の診療に寛容なのか。一度見学に来ればわかる。

●先輩研修医から一言

学生時代、人よりだいぶ多くの時間とお金を使って病院見学しました。西日本の病院も、首都圏の病院もたくさん見たけれど、最終的に選んだのはここです。病院見学の数は関係ありません。大事なのはいいと思える病院に出会えることです。先輩からの評判だとか、友人の話、病院関係者の勧誘。どれもあてにはなりません。自分で決めてください。満足するまでやり遂げてください。大概の場合、研修は1か所です。比べられるのは学生のうちです。そして、どんなに悩んで決めた病院でも、辛くて辞めなくなる瞬間は必ずあります。そんな時、他の病院ならこんな思いはしなかったのと思うか、あんなに悩んで選んだのだからここが一番いいはずだと思えるかです。自分自身でたくさん考えて悩んで、そしてここに決めてください。待ってます。

■病院理念

八戸市立市民病院は市民の生命と健康を守るために、常に医療の質の向上に努め、患者中心の想（おも）いやりのある医療を提供します。

■診療内容

- 診療の特徴、実績
平成9年9月に新築移転を果たし、新病院建設を機に、第3次の重篤救急患者を専門に24時間診療体制を確保する救命救急センター、そして出産前後の母体及び胎児・新生児の一貫した管理を行う周産期センターを新設し、最新の医療機器の導入により先進的医療を行うなど、診療内容の充実・専門化と機能の向上を図りました。また、病院機能評価認定病院や主だった学会の殆どの認定施設となっています。

●診療科・医師数

診療科名	消内	循内	呼内	内分泌	小	外	形成	呼外	乳外	脳外	小外	神内	心外	整形	皮膚
医師数	6	5	4	3	5	10	0	4	1	2	1	2	3	5	1
指導医数	3	4	4	2	2	6	0	2	0	2	1	1	2	4	1

診療科名	泌	産婦	眼	耳鼻	精神	麻酔	緩和医療	放射線	臨床検査	救命	合計
医師数	3	8	2	2	1	4	1	2	1	19	95
指導医数	1	5	1	1	1	4	1	2	1	9	60

- 許可病床数：608床（一般 552床、精神 50床、感染症 6床）
- 入院患者数（1日平均）：544.4名
- 外来患者数（1日平均）：1,061.6名
- 平均在院日数（一般病床）：14.1日
- 分娩件数：1,390件
- 救急医療の提供実績：三次救急背景人口は50万人。2009年3月からドクターヘリ運航、2010年3月からはドクターカーも導入している。また、救急車のほかに太平洋上からヘリコプターで、米軍から度派手な米軍車で搬入されることもある。2015年度ドクターヘリが約490件。ドクターカーが約1440件。歩いてくる患者から心肺停止までを一つのフロアで扱うERを展開している。救命救急センター集中治療室が30床稼働している。

- 医療法上の位置づけ：3次医療機関
- 救急取扱件数：22,430件
- 救急車取扱件数：5,561件
- 救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】450,000円（月額、手当・税込）、5,400,000円（年額、賞与・手当・税込）
【2年次】550,000円（月額、手当・税込）、6,600,000円（年額、賞与・手当・税込）
- 研修医に対する各種保険等の適用：全国健康保険協会管掌健康保険、厚生年金、労働者災害補償保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無：有り
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】有り（通常保育のほか、夜間・一時・病児・病後児保育あり。年中無休）
【その他】育児休暇、育児短時間勤務、等は相談に応じて対応

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：19名
- 応募資格：平成30年医師国家試験合格見込の者かつマッチングへ参加する者
- 応募必要書類：(1) 研修申込書（当院指定様式）(2) 履歴書 (3) 大学卒業（見込）証明書 (4) 成績証明書
- 試験内容：(1) 面接
- 申込締切日：各試験実施日の1週間前（詳細は当院ホームページにて試験日が決定次第掲載）
- 試験実施日：平成29年8月～9月上旬（5、6回に分けて実施予定）、うち1回は東京で実施

■現在の研修状況と進路

- 研修中的人数：1年次 19名 うち女性 7名
2年次 16名 うち女性 2名
- 研修医の主な出身大学：弘前大、東北大、長崎大、宮崎大、獨協医科大、東海大、札幌医科大、岩手医科大、山形大、東京医科歯科大、東京女子医大、杏林大、京大、京都府立医科大
- 当直回数（月平均）：4回（1年次は副当直、2年次から当直）
- 研修終了後の進路：八戸市立市民病院、札幌医科大学付属病院、東北大学病院、日本医科大学付属病院、順天堂大学医学部付属順天堂医院、東京医科歯科大学医学部付属病院、東京大学医学部付属病院、信州大学医学部付属病院、仙台医療センター、洛和会丸太町病院、など
- 後期研修プログラムの有無：有り（基幹施設としての診療科・・・内科、救命救急科、総合診療科
連携施設としての診療科・・・外科、小児科、産婦人科、整形外科、麻酔科、皮膚科、精神科、耳鼻咽喉科、眼科、脳神経外科、泌尿器科、放射線科、病理）

■申し込み、問い合わせ先

八戸市立市民病院
臨床研修センター
031-8555 青森県八戸市大字田向字毘沙門平1
TEL 0178-72-5012 FAX 0178-72-5115
E-mail kensyu@hospital.hachinohe.aomori.jp

●当院の臨床研修の特色

- (1) 青森県の中核病院であるため、あらゆる症例が集まり、幅広い経験ができます。
- (2) 選択外科を2カ月間以上の必修とし、外科系の頻度の高い疾患や病態に対応できるよう配慮しています。
- (3) 選択外科は、全診療科目の中から選択して組み合わせを自由にできるため、個々の希望に合った診療科で充実した研修が出来ます。臨床研修到達目標に未達成がある場合にはその補完にも充てられます。また、2カ月以内で協力病院での研修を選択することも可能です。
- (4) 救命救急センターや県内唯一の総合周産期母子医療センターで研修が出来ます。特に、救命救急センターは、ウォークインから救急搬送まで1～3次救急に幅広く対応しており、平成23年度にHCUを含む新救命救急センターの稼働とドクターヘリ運航開始によりますます機能が充実し、救急部門の研修において多様な症例を経験できます

■プログラム紹介 (参考：平成29年度開始プログラム)

- プログラム名／プログラム責任者：青森県立中央病院臨床研修プログラム／竹森 弘光
- 研修スケジュール 募集人数 16名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科						救急(※1)	選択外科(※2)		選択必修(※3)		
2年次	地域医療	選択科目(※4)										

- (※1) 3ヶ月の救急部門研修においては、救命救急センターでの研修を1か月間行い、残りの期間は月3～4回程度の宿日直による対応とする。
- (※2) 選択外科は、外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、心臓血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科のうちから1科または複数科を選択し、2ヶ月間以上行う。
- (※3) 選択必修は、小児科、産婦人科、精神科、外科(外科は選択外科と同じ科目)のうちから2科目以上選択する
- (※4) 選択科目については研修協力病院で行うことも可(2ヶ月以内)

●協力型病院名(科目)

八戸市立市民病院(全診療科)	むつ総合病院(全診療科)
黒石病院(内科、外科、産婦人科、脳神経外科、整形外科、小児科、眼科、地域医療)	弘前大学医学部附属病院(全診療科)

●協力施設

青森県立つくしが丘病院	青森慈恵会病院	ときわ会病院
大間病院	外ヶ浜中央病院	野辺地病院
三戸中央病院	六ヶ所村地域家庭医療センター	他9施設

■教育体制

(1) 院内症例検討会	(4) 各科カンファレンス
(2) 各科医師による研修医向け勉強会	(5) 研修医による症例報告会
(3) 研修医による勉強会	(6) 臨床研究報告会(年1回)

■メッセージ

●指導医から一言

当病院は、東北地方でも有数の規模を誇る青森県唯一の県立総合病院です。現在「総合周産期母子医療センター」「救命救急センター」「がん診療センター」「循環器センター」「脳神経センター」「糖尿病センター」を設置してチーム医療に取り組んでおり、最適な医療サービスや治療を行っています。

研修に当たって、全国ランキングにも取り上げられるほどの豊富な症例数、多彩な放射線診断・治療装置を始めとした、高度医療機関、充実した指導体制、活発な研究活動の奨励など、臨床での実力を身につけ専門の資格を取得するために、絶好の場を提供できると自負しております。

大学院高度医療機関や県内自治体病院等との連携を図り、効果的な研修プログラムを準備しており、本人の希望に添った様々な組み合わせが可能です。

特に地域医療に意欲のある志を持った研修医を歓迎します。

当院で臨床研修医を志す皆様を、職員一同心からお待ちしております。

●先輩研修医から一言

青森県立中央病院の研修医はやる気次第によって、各自の景色が変化する病院です。とにかく多くの奨励を経験したければ、いわゆる野戦病院のように働くことが出来ます。症例発表の経験を積みたければ、多くの診療科で機会があります。専攻科が決まっていない、あるいは総合診療を希望であれば、ほぼすべての診療科が揃っているので各科を経験することが出来ます。院内託児所があり、キャリアと子育てを両立することもできます。老若男女を問わず、皆さんの見学をお待ちしております。WE NEED YOUR POWER!

■病院理念

県民の健康をささえ 安全で高度な医療を提供し 患者さん中心の心あたたかな病院を目指します

■診療内容

●診療の特徴、実績

県の基幹病院として診療科25科、救命救急センター、総合周産期母子医療センター、集中治療部、輸血部、人工透析室、MEセンター、医療情報部等を有し、高度医療を提供しています。また「がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病」の4疾病に対する拠点として、「がん診療センター」「脳神経センター」「循環器センター」「糖尿病センター」を設置し、縦割りの診療体制から疾病特異的な体制(センター化)へ転換することで、最適な医療サービスや治療を行っています。

●診療科・医師数

診療科名	消	血液	呼吸器内	呼吸器外	外	泌	耳	腫放	歯科	循	心外	神内	脳外	内分	皮
医師数	7	4	3	3	13	4	3	1	3	6	4	9	4	6	3
指導医数	4	4	2	1	9	3	1	1	1	4	3	6	2	4	1

診療科名	眼	新生児	産・産婦	リウマチ	メンタル	小	整	麻	救急	総診	放	病理	その他	研修医	合計
医師数	3	7	7	2	2	7	6	7	7	5	2	2	7	35	172
指導医数	2	1	6	1	1	5	2	3	3	1	2	1	1		75

- 許可病床数：694床(一般689床、感染症5床)
- 入院患者数(1日平均)：582.2名
- 外来患者数(1日平均)：1,287名
- 平均在院日数(一般病床)：13.3日
- 分娩件数：670件
- 救急医療の提供実績：救命救急センター専任医師及び各診療科の医師により、24時間365日診療に対応しています。平日夜間と休日は内科系・外科系・研修医の併せて4名の当直、休日には小児科医も加わります。MFICU、NICU、ICU、EICU、SCUには各当直医があり、各診療科医師が24時間バックアップしています。ドクターヘリも運航しています。

- 医療法上の位置づけ：3次医療機関
- 救急取扱件数：15,453名
- 救急車取扱件数：3,520名
- 救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また医師数及び指導医数は平成28年12月1日現在、許可病床数は平成28年12月15日現在です。※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】363,400円(月額、手当・税込)、4,410,800円(年額、賞与・手当・税込)
【2年次】387,623円(月額、手当・税込)、6,151,480円(年額、賞与・手当・税込)
- 研修医に対する各種保険等の適用：公的医療保険、公的年金保険、地方公務員災害補償法
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無：有り
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】有り(対象年齢：生後8週～就学前まで、開えん時間：7:00～22:00(年中無休))
【その他】育児短時間勤務等(正職員と同様の支援体制をとっています。)

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：16名
- 応募資格：平成29年度医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類：(1)臨床研修申込書(所定様式)(2)履歴書(所定様式)(3)成績証明書(4)卒業(見込み)証明書(5)健康診断書
- 試験内容：面接
- 申込締切日：平成29年9月末日(予定)
- 試験実施日：平成29年7月～10月(複数回実施予定)

■現在の研修状況と進路

- 研修中的人数：1年次 16名 うち女性 5名
2年次 16名 うち女性 9名
- 研修医の主な出身大学：弘前大学、東北大学、自治医科大学
- 当直回数(月平均)：4回(1年次5月～8月は副直。当直は1年次の9月から開始)
- 研修終了後の進路：青森県立中央病院、弘前大学医学部付属病院
- 後期研修プログラムの有無：有り(新専門医(総合診療、内科))

■申し込み、問い合わせ先

青森県立中央病院
総務課

030-8553 青森県青森市東造道2丁目1-1
TEL 017-726-8315 FAX 017-726-8325
E-mail kenbyo@pref.aomori.lg.jp

●当院の臨床研修の特色

初期研修の目標は大きく2つ①健生病院の救急外来当直を担える力量を身につけること②診療所の副所長を担える力量を身につけることです。いずれも「確かな診療能力」「問題解決能力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」なしでは達成できないものであり、将来専門とする科に関わらずすべての医師が備えておくべき能力であると言えます。研修科や指導内容はそれらを身につけるための内容になっており、2年経つと医師としての成長が実感できると思います。スーパーローテート研修は各科の研修期間が短く、興味がない分野の研修を強いられてモチベーションの維持が難しいと思われがちですが、「将来その科を選択しない医師が知っておくべきこと」「当直や救急外来での対応方法」にポイントを絞って研修するため、自然にプライマリケア能力が向上し、モチベーションも低下しません。また、指導医のバックアップのもと、主体的に診療に携わることで責任感が芽生え、自ら考え調べる機会が増え、患者様を通して多くの学びが得られることも特徴です。研修の質向上への取り組みも継続的に行われており、青森県内初の「NPO法人卒後臨床研修評価機構」による研修プログラムおよび人材育成等の第三者評価を受審・認定を取得（2008年12月1日付）。地域医療の実践を理念として全職員で取り組んでいる点や研修プログラム、指導医・事務担当者のサポート体制、研修医の満足度などが高く評価されています（2016年更新）。

■プログラム紹介（参考：平成29年度開始プログラム） ※平成30年度開始プログラム変更予定あり

- プログラム名／プログラム責任者：津軽保健生活協同組合健生病院 初期医師臨床研修プログラム／竹内 一仁
- 研修スケジュール 募集人数9名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科			整形外科(1.5ヶ月)・外科(1.5ヶ月)・小児科(1.5ヶ月)・ER(2ヶ月)								
2年次	内科			精神科	産婦人科	リハ科	地域医療(診療所)1.5ヶ月	選択				

●協力型病院名(科目)

あおもり協立病院(内科)	藤代健生病院(精神科)
生協さくら病院(精神科)	川久保病院(内科、小児科、リハビリテーション科、眼科(選択))
弘前市立病院(内科、小児科、外科、整形外科、麻酔科、眼科、臨床病理(選択))	国立病院機構弘前病院(泌尿器科(選択))

他1施設

●協力施設

健生クリニック	健生黒石診療所	健生五所川原診療所
津軽医院	中部クリニック	八戸生協診療所
さわやかクリニック	協立クリニック	他1施設

■教育体制

1. 当直のための各科ミニレクチャー、医療安全、感染対策等の学習会を開催する。
2. 各科病棟カンファレンス、POC(術前検討会)、研修医一スタッフカンファレンス、CPCが位置づけられている。
3. 研修医学習会：毎週火曜日午前中開催(勤務時間内での学習会の保障)
4. 毎月1回研修医会を位置づけ、研修内容・待遇条件改善のための討議を行っている。その中で研修報告をしてお互いの状況を共有したり、SEA(Significant Event Analysis)を行っている。
5. 内科研修は1年目、2年目それぞれで行う。1年目研修医は原則全員内科から研修を始め、同時期に2年目研修医を内科に配置する。
6. 1年目内科研修中、専属指導医による内科外来・腹部エコー・CT読影研修を行う。
7. 救急研修は専属指導医のもとERで研修を行う。

■メッセージ

●指導医から一言

健生病院の救急外来(ER)には、軽症から重症まで様々な患者が訪れ、初期研修を行なうには最適な環境だと考えます。一般内科外来、救急外来(ER)、当直研修などにおいては、ステップアップ方式をとっています。研修医ひとりひとりの到達度を考慮し、着実に成長できるよう心掛けています。また、女性医師の割合も高く、皆活き活きしており、働きやすい病院だと思います。NPO法人卒後臨床研修評価機構から認定を受けており、暖かくかつ実践的な研修指導で研修医が着実に力をつけているとの評価を頂きました。現状に妥協せず研修の質の更なる向上に向けて絶えず改善するようになっています。是非一度見学・実習にいらしてください。

●先輩研修医から一言

健生病院の研修は2年間のスーパーローテート研修を行うことにより幅広い基本的な診療能力が身に付く内容になっています。できるだけ研修医に責任を持たせつつ、しっかりと指導医がフォローしてくれます。2年目の当直ひとり立ちに向けての当院独自のオスキーがあり、①コモンディーズを診察できる、②重症疾患を見逃さない、③初期対応ができる、について確認することで、安心して当直することができます。総合医局で雰囲気もよく、各科の先生にコンサルトしやすい環境です。また指導医だけでなくメディカルスタッフ全体が丁寧に教えてくれる病院だと思います。

■病院理念

1. 「患者の権利を守る立場で医療活動を実践します。
2. 医療生協の病院として患者・組合員との「共同の営みの医療」(＝参加型医療)を実践します。
3. 「医療の安全」を最優先し、「医療の質向上」に努めます。
4. 良質な医療を行うために、より充実したチーム医療を実践します。
5. 地域の現状を正面から見据え、地域からの要求に応えるため、粘り強く地域医療を展開します。
6. 医療従事者として「平和の尊さ」と「社会保障の充実」を地域社会に広く訴えます。

■診療内容

●診療の特徴、実績

健生病院は「無差別・平等の医療」を基本理念とし全病床で「差額」がありません。

2010年1月より「お金がないために病院にかかれず命を落とす人をなくす」ために無料・低額診療を開始しました。また「いつでもどこでも親切で良い医療」をもう一つの大きな理念と位置づけ、地域の救急医療に全力を挙げて取り組んでいます。救急車の受入数は弘前地区管内総数の約30%にあたります。救急外来(ER)の年間総受診者数は約20,000人で、緊急入院は2,000件/年を超えています。治療にとどまらずリハビリテーションから予防・健康増進にいたる包括的な医療活動を展開しています。

公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院。2017年10月弘前市扇町にて新築リニューアルオープン予定。

●診療科・医師数

診療科名	内科	外科	整形外科	小児科	産婦人科	救急科	精神科	麻酔科	リハ科	合計
医師数	14	5	3	5	2	5	1	1	3	39
指導医数	9	3	2	3	2	2	1	1	1	24

- 許可病床数：282床(一般282床)
- 入院患者数(1日平均)：283名
- 外来患者数(1日平均)：158.2名
- 平均在院日数(一般病床)：15.7日
- 分娩件数：351件
- 救急医療の提供実績

当院救急外来は、弘前市内の救急輪番制の指定病院になっており、内科・外科・小児科の軽症から重症まで幅広く患者様を受け入れています。弘前市内に搬入される救急車のおよそ3分の1を受け入れており、総受診者数は19,000人を超えています。24時間365日、どんな患者様でも診察を行い、救急外来医師が科を問わず、診断・治療を進めています。いつでも、だれにでも安心・安全な医療を提供できるよう、患者様が安心して受診できる救急外来であり続けることができるよう、日々頑張っています。

- 医療法上の位置づけ：2次医療機関
- 救急取扱件数：19,805件
- 救急車取扱件数：1,960件
- 救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】382,000円(月額、手当・税込)、5,578,700円(年額、賞与・手当・税込)
【2年次】402,000円(月額、手当・税込)、5,853,700円(年額、賞与・手当・税込)
- 研修医に対する各種保険等の適用：組合保険、厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無：無し(住宅手当支給)
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】無し
【その他】短時間勤務制度

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：9名
- 応募資格：医学部医学科卒業(見込み)者、医師国家試験合格(見込み)者
- 応募必要書類：(1)規定履歴書(2)健康診断書(3)卒業(見込み)証明書(4)成績証明書
- 試験内容：(1)面接(2)小論文(3)書類審査(4)実習
- 申込締切日：平成29年10月上旬の予定
- 試験実施日：随時行う。申込者と日程調整のうえ実施。

■現在の研修状況と進路

- 研修中的人数：1年次2名 うち女性0名
2年次5名 うち女性0名
- 研修医の主な出身大学：弘前大学、北海道大、岩手医科大学
- 当直回数(月平均)：4回(1人あたりの月平均)
- 研修修了後の進路：健生病院、藤代健生病院、あおもり協立病院
- 後期研修プログラムの有無：有り(内科(消化器、循環器)、総合診療科、救急科、集中治療、麻酔科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、精神科、リハビリテーション科)

■申し込み、問い合わせ先

津軽保健生活協同組合 健生病院
医局医学生課

036-8511 青森県弘前市野田2-2-1
TEL 0172-32-1171 FAX 0172-32-1176
E-mail ao-min1@kensei-hp.com

●当院の臨床研修の特色

二次医療圏の中核病院として豊富な症例を経験し、初期医療、専門的医療、救急医療、緩和ケアを含めた包括的がん医療について重点的に研修を行います。慢性疾患や高齢患者及びがん終末期患者の在宅医療、リハビリテーション、社会復帰などについても、生活を重視した総合的な管理計画を立案できるような研修となっています。選択科の研修期間を長めに設定していますので、各診療科を幅広く研修することも、特定の診療科を深く研修することも可能です。また、1年次は診療科に1研修医のみ配置としていますので、マンツーマンによる指導が行われ、症例や手技を一定数以上確保できるよう配慮しています。

当院では、働く毎日が実践となります。研修医としてだけではなく医師として、現実の地域医療で多くを学び、多くの人と関わりながら成長し、多くの経験を重ねて一人前になる機会が豊富にあります。

■プログラム紹介 (参考：平成29年度開始プログラム)

- プログラム名／プログラム責任者：十和田市立中央病院臨床研修プログラム／杉田 純一
- 研修スケジュール 募集人数6名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	内科						救急	選択必修科					選択科
2年次	選択科	地域医療	地域保健	選択科									

●協力型病院名 (科目)

青森県立中央病院 (産婦人科)	国民健康保険 五戸総合病院 (産婦人科)
国立病院機構 弘前病院 (産婦人科)	弘前大学医学部附属病院 (麻酔科)
三沢市立三沢病院 (産婦人科)	東北大学病院 (病理)

●協力施設

上北地域民局地域健康福祉部保健総室 (上十三保健所)	十和田湖診療所	小嶋外科胃腸科医院
静仁会静内病院	介護老人保健施設みのり苑	しんクリニック産婦人科・皮ふ科

■教育体制

研修開始から1週間はオリエンテーションとして、医療安全管理、感染防止対策等のほか、各種オーダーリング用紙の記入についてのレクチャーや演習等を行います。2週目から各診療科での研修に入りますが、臨床検査実習や動脈穿刺、注射等の方法、EBMの実践等のレクチャーも随時行います。

定期的に研修医症例発表、指導医講義、症例検討会、画像検討会、救急室勉強会などを開催しています。そのほか、外部の講師を招いての講演会など、多くの研修機会があります。

■メッセージ

●指導医から一言

当病院は青森県南東部に位置し、地域住民に信頼の厚い中核病院です。救急患者は年間1万人程度で、広大な地域から豊富な症例が集まります。研修1ヶ月後より副直(指導医と共に当直)を実施し、初めから実践的なトレーニングを行います。

研修医は一学年最大6人なので、指導医からマンツーマンで指導を受けることができます。長期の選択科を利用して必修科を更に深く学んだり、外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科等がある程度自由に組み合わせることも可能です。また、研修医症例発表や指導医講義、その他各種検討会、勉強会を開催しています。

病院見学は、随時受け付けしています。意欲のある研修医を待っています。

●先輩研修医から一言

当院の研修の特徴は、知識と技術が直結した相乗的な研修が行えることだと思います。指導医講義や各種勉強会、外部講師を招いた講演会などが定期的で開催され充実するとともに、実践経験の多い当院では前述の場で学んだ知識を用いることで、活かした知識・技術として習得することが可能です。また救急も上十三地域の広い地区をカバーしています。研修医の数も多すぎないことから非常に多くの症例を経験することができます。また研修中経験した症例は定期症例発表により、各科の先生方からフィードバックを受けるとともに、将来学会での発表を見据えたトレーニングを受けることが出来ます。

このように充実した研修内容と積極的な病院スタッフの多い恵まれた環境で研修することができ、毎日が非常に充実しています。是非一度見学に来てください。

■病院理念

「いのちをまもり、いのちをささえ、いのちをつなぐ」医療の実践
(基本方針)

- 1) 生活に寄り添う視点で効率の良い医療を行う(急性期医療の展開)
- 2) 思いやりや温かみのある医療を行う(緩和医療・在宅医療の展開)
- 3) がんや生活習慣病などの早期発見・予防に取り組む(健診・疾病予防の推進)
- 4) 病院が提供する医療の質の向上を図り、常にその改善に努める(医療の質指標(Quality indicator:Q)提示の推進)
- 5) 誰もが理解でき納得できる医療を行う(情報開示と合意に基づく医療の展開)
- 6) 病院の理念に賛同する医療介護福祉の従事者を育てる(人材の育成)
- 7) 病院で働く人が誇りを持って快適に働ける環境を整備する(職場環境の整備)
- 8) 病院運営および経営の透明化を図る(病院経営の健全化)

■診療内容

●診療の特徴、実績

初期医療(プライマリケア)、専門的医療、救急医療、がん医療(緩和医療を含む)、在宅医療(慢性疾患、高齢者、がん終末期、神経難病)、急性期リハビリテーションなどの幅広い医療を展開しています。脳血管障害に対する外科的治療、内科的治療の拠点病院として認知されているほか、院内横断的なチーム医療の推進や、がん医療・緩和医療への積極的な取り組み、地域医療(福祉)連携なども積極的に展開しています。

●診療科・医師数

診療科名	内科	外科	小児科	精神科	麻酔科	整形外科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	皮膚科	産婦人科	放射線科	総合診療科	合計
医師数	6	7	1	3	2	3	0	1	3	2	0	1	1	2	32
指導医数	4	5	1	2	1	1	0	1	1	2	0	1	0	2	21

●許可病床数：379床(一般325床、精神50床、感染症4床)

●入院患者数(1日平均)：260.2名

●外来患者数(1日平均)：659.3名

●平均在院日数(一般病床)：13.5日

●分娩件数：0件

●救急医療の提供実績：上十三地域保健医療圏の中核病院として、年間約1万件の救急患者を診察しています。救急体制は当直制ですが、各科で毎日待機医を決め救急診療を運営しています。救急車による受け入れ患者数は、年間で約1,800件、一次救急患者も含め幅広い症例の患者を診察しています。

●医療法上の位置づけ：2次医療機関

●救急取扱件数：8,826件

●救急車取扱件数：1,742件

●救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

●研修手当 ※実績等による目安：【1年次】570,000円(月額、手当・税込)、6,840,000円(年額、賞与・手当・税込)
【2年次】600,000円(月額、手当・税込)、7,200,000円(年額、賞与・手当・税込)

●研修医に対する各種保険等の適用：社会保険、厚生年金保険、労働者災害補償保険

●医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意

●宿舍の有無：有り

●出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】有り(開園時間7:30~19:00 定員15名(乳児0才:3名 1~3才:12名))

【その他】育児短時間勤務制度

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

●募集予定人数：6名

●応募資格：(1)平成30年医師国家試験受験予定者 (2)医師免許取得済で医師臨床研修未修了である者
※いずれもマッチングを希望する年に病院見学をすることが必須となります。

●応募必要書類：(1)臨床研修申込書 (2)履歴書 (3)卒業(見込み)証明書 (4)成績証明書 ※(1)、(2)はHPからダウンロードできます。

●試験内容：(1)面接 (2)書類選考

●申込締切日：平成29年9月末日

●試験実施日：平成29年9月末日までの随時(平日のみ)

■現在の研修状況と進路

●研修中的人数：1年次 3名 うち女性 1名
2年次 3名 うち女性 0名

●研修医の主な出身大学：金沢大学、千葉大学、岩手医科大学、弘前大学

●当直回数(月平均)：4回(研修医は、単独で日当直を行わず副直となる)

●研修修了後の進路：十和田市立中央病院

●後期研修プログラムの有無：有り(外科、内科、総合診療科、メンタルヘルス科)

■申し込み、問い合わせ先

十和田市立中央病院
業務課医療支援室 1

034-0093 青森県十和田市西十二番町14-8

TEL 0176-23-5121 FAX 0176-23-2999

E-mail naoki_akimoto@city.towada.lg.jp

●当院の臨床研修の特色

むつ総合病院は本州北端にある下北半島の中心に位置し、約8万人の医療圏を持つ当地域では唯一の中核病院で、二次救急病院としての役割を担っています。

しかし、県内の主要都市からは遠隔なため、実際には一次～三次救急まで幅広く行っています。高次病院では経験できないような症例が多数あり、臨床研修の場としては最適な状況にあります。

私たちは、「信頼される病院になる」を病院の理念としています。研修医に対しては、医師としての人格を涵養し、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的診療能力(態度、技能、知識)を身につけること、医療安全についての見識を高め、安全文化の醸成を理解し、実践する能力を身につけること、チーム医療のメンバーとしての自覚を持ち、他職種の職能を理解し、協調しながらチーム医療を実践していく能力を身につけることを指導の基本理念としています。そのための一つの方法として、研修医が受け持った症例の一部について、各科の壁を越えて一貫して診ていくという「追跡方式」を採用しています。

■プログラム紹介 (参考：平成29年度開始プログラム)

- プログラム名／プログラム責任者 : むつ総合病院臨床研修プログラム／坂井 哲博
- 研修スケジュール 募集人数 8名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	内科(一般内科)		内科(循環器内科)		救急(1か月)		外科(5か月)						
2年次	小児科(2か月)		産婦人科(2か月)		精神科		地域医療					自由選択(6か月)	

●協力施設

東通村診療所	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	沖縄県立宮古病院
沖縄県立北部病院	沖縄県立八重山病院	国民健康保険大間病院
下北地域県民局地域健康福祉部保健総室(むつ保健所)	静仁会静内病院	他5施設

■教育体制

日常の研修を有意義なものとするため以下のイベントを定期的に開催しています。

- ①勉強会(月2回)
研修医自らが講義内容を選出します。年1回は2年次研修医自らが講義を行うことで、理解を深めています。
- ②症例検討会(月1回)
ラウンドした科から各々年間2回プレゼンテーションを行います。質疑応答内容は一定期間張り出し、添削や検証も行えます。
- ③ERカンファ(月2回)
先輩医師に見守られながら、救急についてのトピックス、症例提示、pitfallなどを出し合います。

- ④ドーナツカンファ(月2回)
文字通りドーナツ(軽食)を食べながら早朝に研修医のみで勉強会を行います。テーマは彼らが自分で決め(日常診療で補足すべき点を中心に)担当者がハンドアウトを作成して進めていきます。
- ⑤その他、沖縄をはじめとした地域医療への参加とその報告会も行っております。

※研修スケジュール補足
救急部門は1か月間、救急外来にて日中トリアージ等を行い、残りの2か月間は2年間の時間外救急外来日当直の研修に手行う。

■メッセージ

●指導医から一言

「生活が陶冶する」愛に基づく教育を実践して日本の教育界に多大な影響を与えたペスタロッチの言葉です。研修医が「生活」のなかで驚くばかりの成長を遂げています。下北半島ほぼ全域を医療圏とするため、膨大な臨床量と正面から向き合わざるを得ません。本院での研修医評価は、1人1人にあてる「物差し」はすべて異なります。見た目では分からない1人1人の心を大切にセルフイメージ(自覚)をできる限り崇高にしてほしいからです。劣っている相手を見て妙な自信を得、自分より頑張っている人を見て不安に駆られるというシーソーゲームを繰り返していませんか?自己中心の産物である劣等感やわがままから離れ、本当に大切なことの中に自分が置かれることを実感できます。研修に専念できる環境が整っている本院を見学してください。

●先輩研修医から一言

むつ総合病院は、広い下北圏内で唯一の総合病院であり、基本的にすべての救急車が当院へ搬送されます。そのため、月に4～5回ある日当直では、common diseaseから稀な疾患まで様々な症例と出会うことができ、初期対応から治療までを経験することができます。また、総合医局であることも当院の魅力です。研修医と様々な科の上級医の先生との物理的な距離が近いので、困ったときの相談や、救急外来で自分が診た患者のその後の経過について、診察した診療科の先生からフィードバックしてもらうことも可能です。指導医の先生方はもちろんのこと、メディカルスタッフの方々も丁寧に、熱心に指導してくれる方ばかりであり、研修するのに優れた環境であると感じております。ぜひ一度、見学に来てこの病院の雰囲気を感じてみてください。お待ちしております。

■病院理念

- (基本理念)
信頼される病院になる
(基本方針)
1. 良質な医療の提供に努めます
 2. 満足度の高い医療に努めます
 3. 安全・安心な医療に努めます
 4. 挨拶と笑顔、心のこもった接遇に努めます
 5. 健全な病院経営に努めます
 6. 優れた医療人の育成に努めます

■診療内容

- 診療の特徴、実績
当院は下北地域唯一の中核病院であり、地理的環境から県内の主要都市からは遠隔なため、急性疾患、慢性疾患等色々な症例を見ることができます。また、地域の民間病院や県内外の病院とも連携が取れており、患者の照会はスムーズに行われ、患者さんの病態について長く診る事ができます。

診療科名	内	循	小	精	外	整	脳外	泌	産	皮	耳鼻	麻	救	病理	合計
医師数	7	3	3	2	7	5	1	3	4	1	1	2	1	1	41
指導医数	5	2	2	2	3	2	1	1	3	1	1	2	1	1	27

- 許可病床数 : 434床(一般376床、精神54床、感染症4床)
- 入院患者数(1日平均) : 377.8名
- 外来患者数(1日平均) : 1,121.6名
- 平均在院日数(一般病床) : 16.4日
- 分娩件数 : 306件
- 救急医療の提供実績 : 当院は当地域では唯一の中核病院で、二次救急病院としての役割を担っています。しかし、県内の主要都市からは遠隔なため、実際には一次～三次救急まで幅広く行っています。

- 医療法上の位置づけ : 2次医療機関
 - 救急取扱件数 : 10,961件
 - 救急車取扱件数 : 2,439件
 - 救急医療を行う診療科 : 全診療科
- ※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。
※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。
※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisj.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安 : 【1年次】500,000円(月額、手当・税込)、6,000,000円(年額、賞与・手当・税込) 【2年次】584,000円(月額、手当・税込)、7,008,000円(年額、賞与・手当・税込)
- 研修医に対する各種保険等の適用 : 1・2年次共通：社会保険、雇用保険、病院賠償保険、厚生年金
1年次：労働者災害補償保険 2年次：地方公務員災害補償法
- 医師賠償責任保険の扱い : 【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無 : 有り
- 出産育児等の支援体制 : 【院内保育園の有無】無し 【その他】無し

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数 : 8名
- 応募資格 : 平成30年医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類 : (1)履歴書(2)成績証明書(3)研修申込書(4)希望調査票(3)(4)は募集要綱巻末綴じ込み、または当院ホームページからダウンロード
- 試験内容 : 面接
- 申込締切日 : ①②平成29年8月10日(木)必着 ③平成29年8月24日(木)必着
- 試験実施日 : ①平成29年8月19日(土) ②平成29年8月20日(日) ③平成29年9月3日(日)
時間は決まり次第当院ホームページに掲載

■現在の研修状況と進路

- 研修中の人数 : 1年次 8名 うち女性 3名
2年次 7名 うち女性 2名
- 研修医の主な出身大学 : 弘前大学、獨協医科大学
- 当直回数(月平均) : 5回
- 研修終了後の進路 : 弘前大学、長崎大学
- 後期研修プログラムの有無 : 無し

■申し込み、問い合わせ先

下北医療センター むつ総合病院
臨床研修教育課

035-8601 青森県むつ市小川町一丁目2番8号
TEL 0175-22-2111 FAX 0175-22-9842
E-mail kensyu1@hospital-mutsu.or.jp

●当院の臨床研修の特色

- ①豊富な症例経験が可能。H27年度の年間手術件数は3,033件（1日約8件）。
- ②必修科目、選択必修科目のすべてを取り入れ、到達目標が十分に達せられるよう構成するとともに、選択科目も十分な期間を確保することで基本的診療能力の修得と将来のキャリア形成に資することの双方を実現できる内容としました。
- ③救急部門は3か月のうち2か月をローテーションとして割り振り、残り1か月は救急外来の当直研修を持ってこれに充てるほか、救急部門の一環として整形外科1か月を必修科目に加えています。
- ④選択必修科目の外科、麻酔科、小児科、産婦人科及び精神科の5科はすべて必修科としています。
- ⑤選択科研修期間を8か月と長めに設定し、研修の自由度を高めるとともに、将来の進路を見据えた研修が出来るように配慮しています。
- ⑥院内セミナーや講演会などのプログラムを定期的実施しています。
- ⑦院内研修だけでなく、学会等での研修も経験できるよう出張旅費も手当てしています。

■プログラム紹介（参考：平成29年度開始プログラム）

- プログラム名／プログラム責任者：青森市民病院臨床研修プログラム／豊木 嘉一（副院長）
- 研修スケジュール 募集人数 10名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科						救急（ほか救急当直1か月）	整形外科	外科		麻酔科	
2年次	地域医療	小児科	産婦人科	精神科	選択科（8か月）							

●協力型病院名（科目）

青森県立つくしが丘病院（精神科）

●協力施設

社団法人慈恵会 青森慈恵会病院 森山内科クリニック	外ヶ浜町国民健康保険 外ヶ浜中央病院 おひさまクリニック	盛ハート・クリニック 青森市保健所
東青地域県民局地域健康福祉部保健総室（東地方保健所）	中南地域県民局地域健康福祉部保健総室（弘前保健所）	

■教育体制

- 研修開始時のオリエンテーションでは、看護局など他の職種での体験研修も実施します。
- 約1ヵ月で各科の救急診療ガイダンスを行い、その後副当直を開始しています。
- 研修当該科では、主治医のもとで担当医（副主治医）として患者を受け持って研修します。
- 研修当該科以外の疾患も、副当直・当直を通して広く研修できます。
- 医局集談会、CPCを毎月開催し、研修医にも発表の機会が与えられています。
- 院内教育委員会主催・共催の研修会のほか、各部局ごとにも勉強会等を開催しています。
- 講師（指導医ほか）を指名する研修医企画主催の勉強会を奨励しています。

■メッセージ

●指導医から一言

当院の研修プログラムでは、救急医療で遭遇することの多い整形外科を基本科研修に組み入れるほか、すべての選択必修科目を必修科目とし、プライマリケア研修の領域拡大を図っています。さらに将来の専門領域選択の便を考慮して選択科研修期間を8か月と長めに設定するなどの工夫をしています。指導医には最も診療及び指導意欲旺盛な中堅クラスも多く、また、高度医療に携わる専門医も多数在籍しています。病院見学は随時可能です。意欲的な皆さんの応募を期待しています。

●先輩研修医から一言

当院は数多くの診療科があり、二次医療圏の基幹病院として、救急診療や高度医療にも取り組んでいます。初期研修の2年間では豊富な症例を経験することができ、手技と知識とを身につけることができます。さらに、選択できる研修期間が8か月と十分に設定されているため、将来を見据えた柔軟な研修を送ることができます。また、出張費などの手当ても出るため、BLS、ACLSをはじめとした講習会に参加したり、学会に参加したりと、院外での勉強の機会も多く与えられています。指導医の先生方は教育熱心な方が多く、経験談を交えながら丁寧に指導して下さいますし、研修医同士も切磋琢磨しながら研修に励んでいます。このように当院では人、環境に恵まれた中で充実した研修生活を送ることができます。是非見学に来てください。

■病院理念

私たちは、安全で良質な医療の提供と、みなさまに信頼される病院を目指します。

■診療内容

●診療の特徴、実績

当院は青森市の中心部に位置し、医療圏人口約31万人を抱える地域の中核病院として、地域医療の充実や福祉の向上、高度・救急医療に取り組んでいます。診療科目は20科、一般病床数538床、約660名の医療スタッフで運営し、平成27年度における年間の手術件数は3,033件、CT検査15,178件、MRI検査5,211件という実績です。

●診療科・医師数

診療科名	糖・内	循・呼	消化器	小	外	整	脳外	心外	皮	泌	産	眼	耳鼻	リハ	放	麻	病理	合計
医師数	4	7	6	5	8	5	3	4	2	3	3	2	1	1	1	2	1	58
指導医数	3	5	4	1	7	3	2	3	2	2	3	2	1	1	1	2	1	43

- 許可病床数：538床（一般538床）
- 入院患者数（1日平均）：338.9名
- 外来患者数（1日平均）：830.4名
- 平均在院日数（一般病床）：13.9日
- 分娩件数：200件
- 救急医療の提供実績：青森圏域の二次救急医療を担っている当院は、独立した救急診療科はありませんが、救急外来患者は1日約36人、救急車搬送患者は1日約7人の受け入れを行っており、救急診療の機会も豊富です。

- 医療法上の位置づけ：2次医療機関
- 救急取扱件数：13,411件
- 救急車取扱件数：2,673件
- 救急医療を行う診療科：精神神経科を除く全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト（REIS）をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】401,640円（月額、手当・税込）、4,819,680円（年額、賞与・手当・税込）
【2年次】417,646円（月額、手当・税込）、5,011,752円（年額、賞与・手当・税込）
- 研修医に対する各種保険等の適用：健康保険、厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】有り
- 宿舍の有無：有り
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】無し

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：10名
- 応募資格：第112回医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類：(1)申込書 (2)調査票 (3)履歴書 (4)卒業見込証明書 (5)成績証明書
※(1)～(3)は指定様式（HPからDL可）
- 試験内容：(1)書類審査 (2)面接
- 申込締切日：平成29年9月上旬（予定）
- 試験実施日：随時（申込者と相談の上調整）

■現在の研修状況と進路

- 研修中的人数：1年次 10名 うち女性 3名
2年次 8名 うち女性 3名
- 研修医の主な出身大学：弘前大学
- 当直回数（月平均）：4回（1年次は定員外の副当直。2年次は指導医とともに当直。）
- 研修修了後の進路：弘前大学大学院医学研究科等
- 後期研修プログラムの有無：有り（糖尿病・内分泌内科、循環器・呼吸器内科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科）

■申し込み、問い合わせ先

青森市民病院
事務局 総務管理チーム
030-0821 青森市勝田1丁目14番20号
TEL 017-734-2171（内線7316） FAX 017-734-7578
E-mail byoin-somu@city.aomori.aomori.jp

●当院の臨床研修の特色

当院は、青森県津軽地域二次医療圏の中核的な病院として、地域の公私医療機関との機能分担と連携を図りながら、プライマリケアに重点を置いた総合的診療、救急救命の二次救急医療及び他医療従事者との協調によるチーム医療を効果的に展開しています。また、胃・大腸疾患、肝胆道系疾患、乳腺疾患、糖尿病・甲状腺疾患などの専門医療も担当しています。

当院における臨床研修は、研修医が少人数であることから、指導医とのマンツーマンによる指導体制をとっていることに加え、津軽地域の二次救急輪番病院として年間約 5,300 人の救急患者を受け入れている実績から、広範にわたる症例を数多く経験することができるという部分が最大の特色であるといえます。

地方病院ならではのアウトホームな雰囲気なかで、医師として次の段階に進むための基礎を着実に築きながらも、プライマリケアを中心とした密度の濃い実践重視の研修を展開しておりますので、積極性溢れる研修医の応募をお待ちしております。

■プログラム紹介（参考：平成 29 年度開始プログラム）

- プログラム名／プログラム責任者：弘前市立病院臨床研修プログラム／中畑 久
- 研修スケジュール 募集人数 3 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
1 年次	内 科						救急部門			外 科			小児科
2 年次	精神科	産婦人科	地域医療	選 択									

●協力型病院名（科目）

独立行政法人国立病院機構弘前病院（産婦人科）	弘前大学医学部附属病院（主に腫瘍科等で、研修医の希望する診療科等について当該診療科等と協議のうえ受け入れが承認されたもの。）
つがる西北五広域連合つがる総合病院（内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、整形外科、耳鼻咽喉科、リウマチ科）	弘前愛成会病院（精神科）
津軽保健生活協同組合健生病院（内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、リハビリテーション科、救急科）	

●協力施設

東地方保健所	鳴海病院	五所川原保健所
弘前保健所	五所の診療所	五所川原市国民健康保険市浦医科診療所

■教育体制

- オリエンテーション（1 年次の 4 月に実施）
- C P C（年間 4 回実施）
- 症例呈示（年間 4 回実施）
- 研究発表会（年間 4 回実施）
- 医局による症例検討会（週に 1 回実施）

当院では、研修医が少人数であることから、指導医とのマンツーマンによる臨床研修を実施しており、C P C や症例発表では必ず発表が割り当てられます。

■メッセージ

●指導医から一言

私たち弘前市立病院では、研修修了時に医師として活躍できる土台が出来上がっていることを目標にプログラムを作成しております。優れた臨床医になるためには、知識や技術を持つことはもちろん必須ですが、いろいろな症例を経験すること、総合的診断能力を持つこと、救急医療に対応できること、他医療従事者との円滑な連携、患者さんの立場に立った医療等々さまざまなことが要求されます。以上のことを踏まえ、当院では研修医 1 人に指導医 1 人が担当する体制をとっております。そのため、指導医と気軽に相談ができ、患者さんとの面談時、救急の際の迅速な行動・処置など、指導医の指導下に研修医が実施できる物事が多々あることが利点としてあげられるかと思えます。いろいろなことを経験し、最終的には礼儀と日常常識的節度を重んじることにより患者さんの立場に立った医療ができるようになってほしいと思います。

●先輩研修医から一言

弘前市立病院は、病院としての規模はそれほど大きくはありません。しかし、二次輪番病院としての救急外来で年間 5,000 人以上の患者が受診しており、研修 1 年目から様々な症例を経験することができます。研修医も少人数で仲良く働いています。また経験豊かな指導医がマンツーマンでしっかりと指導するので、実践でのスキルも多く身に付けられます。定期的に行われる症例発表の他、学会発表の機会もあるので、将来に役立ちます。弘前大学医学部附属病院をはじめ他の津軽地域の病院とも連携しており、2 年目の診療科の選択で 1 人 1 人自由にプログラムを組んで、より高度で専門的な医療を学ぶこともできます。病院見学は随時募集中ですので、ぜひ一度足を運んでみてください。皆さんと共に働けることを楽しみにしております。

■病院理念

1. 患者中心の医療
2. 医療の質の向上
3. 医療機能連携の推進
4. 安全管理の徹底
5. 経営の健全化

■診療内容

●診療の特徴、実績

当院は、弘前市民の健康を守る中核的な病院として診療を行うとともに、内科、外科、小児科の二次救急輪番病院として地域の救急医療に取り組み、年間約 5,300 人の救急患者を受け入れております。

●診療科・医師数

診療科名	内	小	外	脳外	整	産	眼	耳鼻	麻	放	リハ	病理	皮膚	合計
医師数	11	2	6	-	3	-	-	-	2	-	-	2	-	26
指導医数	9	2	6	-	2	-	-	-	2	-	-	1	-	22

- 許可病床数：250 床（一般 250 床）
- 入院患者数（1 日平均）：166.5 名
- 外来患者数（1 日平均）：448 名
- 平均在院日数（一般病床）：15.8 日
- 分娩件数：0 件
- 救急医療の提供実績：二次救急を中心とした救急医療を基本方針としており、内科系、外科系、小児科の二次救急輪番病院として救急患者を受け入れている。年間救急患者は、約 5,300 人が受診しており、さまざまな症例を実習することができます。

- 医療法上の位置づけ：2 次医療機関
- 救急取扱件数：6,129 件
- 救急車取扱件数：1,494 件
- 救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成 27 年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成 28 年 12 月 1 日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数 7 年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト (REIS) をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処 遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1 年次】576,500 円（月額、手当・税込）、6,918,000 円（年額、賞与・手当・税込）
【2 年次】590,800 円（月額、手当・税込）、7,089,600 円（年額、賞与・手当・税込）
- 研修医に対する各種保険等の適用：全国健康保険協会管掌健康保険、厚生年金保険、労働者災害補償保険（2 年次は地方公務員災害補償制度）、雇用保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無：無し（住居手当有り）
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】無し

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：3 名
- 応募資格：平成 30 年医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類：(1)願書（所定用紙）(2)成績証明書 (3)卒業（見込み）証明書 (4)戸籍抄本（謄本可）
- 試験内容：(1)書類審査 (2)面接
- 申込締切日：平成 29 年 10 月頃の予定
- 試験実施日：平成 29 年 10 月まで随時（予定）

■現在の研修状況と進路

- 研修中の人数：1 年次 3 名 うち女性 0 名
2 年次 3 名 うち女性 2 名
- 研修医の主な出身大学：弘前大学
- 当直回数（月平均）：3 回（半当直制度（23 時までの副直）あり、月 34 時間までの制限あり、1 年次は副直）
- 研修修了後の進路：無し
- 後期研修プログラムの有無：無し

■申し込み、問い合わせ先

弘前市立病院
総務課
036-8004 青森県弘前市大字大町三丁目 8 番地 1
TEL 0172-34-3211（内線 164）FAX 0172-37-6367
E-mail shibyujimu@city.hirosaki.lg.jp

●当院の臨床研修の特色

プログラムの特色は、①研修の最初の2週間を、オリエンテーションとして、病院の理念・倫理・医療安全管理・院内感染対策等の理解に加え、事務局医事会計係、リハビリ科、栄養科、薬剤科、看護局、診療放射線科、中央材料室、臨床検査科、診療記録管理室(病歴室)などの研修を通じ、医師として他職種の業務に関する最低限の知識・理解を身に付けることによって、相互理解による全職種の職員との円滑なコミュニケーションが得られるように配慮したこと。②救急部門の3ヶ月間の研修は、整形外科、脳外科、麻酔科で研修を行なう。ただし、救急搬送の患者が来院した場合は整形外科、脳外科や麻酔科で研修中であっても直ちに救急外来室に駆けつけ、当該科の医師のもとで指導を受けることとし、救急搬送患者の多い当院で、種々の急性期疾患や軽症から重症までの多様なcommon diseaseを含んだ疾患・病態への対応能力が効率的に習得できるとともに、幅広いプライマリ・ケアが身に付くようにしたこと。また、2年目に沖縄県立南部医療センター・こども医療センター等で救急部門の研修を選択することも可能としている。③地域医療では、当院の地域医療支援センターの在宅医療室が熱心に取り組んでいる在宅医療(訪問診療・訪問看護)等の経験に加え、医療相談室や医療連携室の業務、診療所等の活動も理解できるように配慮したこと。あるいは、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、北部病院、八重山病院等とその附属診療所で僻地・離島での地域医療の研修も選べるようにしたこと。④地域保健も2週間ほど選択できるようにしたこと。⑤内科研修を6ヶ月としたことである。

1年目に内科6ヶ月、救急部門3ヶ月の研修に加え、選択必修科目として外科、産婦人科、小児科、麻酔科および精神科から2診療科目の研修を3ヶ月間で行い、2年目に地域医療1ヶ月の他に11ヶ月間は将来専門とする診療科を中心に、関連の診療科や不十分な分野での研修を行なうプログラムとしている。将来専門とする、あるいは関連の診療科としては、弘前大学医学部附属病院での研修も望むのであれば、当該科と協議の上で受け入れ可能であれば、その科で数ヶ月の研修を行うこともできる。

■プログラム紹介 (参考：平成29年度開始プログラム)

- プログラム名／プログラム責任者：黒石病院臨床研修プログラム／齋藤 太郎
- 研修スケジュール 募集人数4名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科						選択必修			救急部門		
2年次	地域医療			選択科								

●協力型病院名(科目)

弘前大学医学部附属病院(標榜診療科)	国立病院機構弘前病院(小児科、産婦人科、救急部門)
つがる西北五広域連合つがる総合病院(内科、精神科)	弘前愛成会病院(精神科)
沖縄県立中部病院(救急部門)	津軽保健生活協同組合健生病院(地域医療)

●協力施設

沖縄県立南部医療センター・子ども医療センター	沖縄県立北部病院	沖縄県立八重山病院
阿部医院	山谷胃腸科内科	たかはし内科循環器科クリニック
平川市国民健康保険葛川診療所	アップロードクリニック	他22施設

■教育体制

研修医のために、最初の2週間に各他職種部門による「オリエンテーション」が行われ、また1年次の4月から9月までの6ヶ月間に「救急医療講座」が月2回、計12回実施される。全職員を対象に、研修医自身が発表する「症例検討会」、「CPC」がそれぞれ年4回、各部門による「集談会」が年3回、「講習会」が年6回、「糖尿病勉強会」が年4回、各委員会による「リカマジメント発表会」が年2回、「NST勉強会」が年6回、「接遇講習会」が年1回、「救急隊員と救急医療を語る会」が年1回、その他が実施されている。

また、各科でPOC、フィルム検討や、学会・研究会での発表が指導医のもとで随時行われている。研修体制：各研修分野とも原則Man to Man方式による研修としている。なお、研修分野の指導医の他に、2年間の研修期間中の指導や相談等にあたる「担任指導医」が1人配置される。

■メッセージ

●指導医から一言

黒石病院は青森県南津軽地域の唯一の総合病院です。年間救急患者数は約5400人(うち救急搬送は約1300件)と、プライマリー・ケア症例から専門的な処置や知識を要する症例まで多数の症例を担当し、地域の医療を支えています。当院は、各診療科の垣根が低く、指導医も充実しており、研修中も複数科での対応ができます。また、弘前大学医学部との交流も密に行われ、専門分野について日々研鑽を積むことができます。

研修中は、様々な症例を経験することにより、診断、治療、そして基本的な臨床手技の習得を目指します。研修医プログラムは、研修医の先生方の希望を考慮し、研修科や研修期間について柔軟に対応しています。

●先輩研修医から一言

黒石病院は市内唯一の救急病院です。年間5000人以上の救急患者、1000台以上の救急車を受け入れていて、その多くを研修医が最初に診察します。研修医は診断・治療と知識以外に手技の向上も求められるため、ある程度以上の症例を経験することが大切です。黒石病院で研修すれば、多くの症例を本当の意味で経験することができます。次に研修プログラムですが、非常に自由度が高く、2年目は最大11ヶ月希望する診療科で研修をすることが可能です。将来の専門を決めている人は11ヶ月その専門で、まだ決めていない人は様々な診療科をローテートするなど希望通りに決めることができます。黒石市は人口こそ35000人と決して多くないですが、市内には「こみせ通り」という飲み屋街もあり、アフターファイブも楽しく過ごせます。黒石病院での研修の魅力を実感するには病院見学に来るのが一番です。是非気軽にお越しください。

■病院理念

1. 公人としての使命・責任の遂行に務めるとともに、そのことを自覚した医療人、社会人として信頼される人格を持つ、誇りと責任ある人間形成へ一層努めます。
 2. 十分な説明と自己決定権を尊重した上で、患者さんの権利を遵守する、患者さん中心の医療を提供します。
 3. たゆみない研鑽に励み医療水準の向上に努め、良質で安心・安全・満足が得られ、信頼される医療の提供をします。
 4. 地域の医療機関や保健・福祉の各関連機関等との連携を積極的に進め、地域全体の医療・保健・福祉のレベルアップを図ります。
 5. 将来の医療を担う研修医、看護師、技師等の医療人の養成に関わるのは病院の責務であり、そのための教育・育成を積極的に行います。
 6. 病院職員が満足して働ける職場環境を整備します。
 7. 良質で安全な医療等を行っていくためにも、健全経営の確立に努めます。
- 「協働性」、「専門性」、「責任性」、「倫理性」、「自主性」、「経済性」の6つをキーワードとする。

■診療内容

●診療の特徴、実績

青森県津軽二次医療圏にある、診療科目16科を有する一般病床257床の自治体病院である。県内唯一のガンマナイフを設置しており、がん診療連携推進病院でもある。

救急医療として365日24時間、脳血管障害を含めた多彩な救急搬送患者を数多く受け入れ、黒石市周辺地域での中心的な二次救急病院としての役割を果たしている。

内科系・外科系ともに種々の専門外来を有するとともに、急性期疾患や軽症から重症までのcommon diseaseを豊富に体験でき、また、亜急性期・回復期から慢性期までの経過も研修できる。また、地域医療支援センター(在宅医療室・医療連携室・医療相談室)では熱心に在宅医療に取り組んでいる。

●診療科・医師数

診療科名	内科	糖尿	神内	小	外	産	整	眼	耳鼻	脳外	麻	放	皮	泌尿	リハ	合計
医師数	6	1	-	-	5	1	3	1	1	2	1	-	-	-	-	21
指導医数	6	1	-	-	5	1	3	1	1	2	1	-	-	-	-	21

- 許可病床数：257床(一般257床)
- 入院患者数(1日平均)：170名
- 外来患者数(1日平均)：499.1名
- 平均在院日数(一般病床)：15.5日
- 分娩件数：0件
- 救急医療の提供実績：年間の救急患者は約5,400人で、うち救急搬送は約1300名で中南地域の救急医療の中核となっている。内訳は脳血管障害、外傷、循環器、消化器疾患などが多い。

- 医療法上の位置づけ：2次医療機関
 - 救急取扱件数：4,673件
 - 救急車取扱件数：1,165件
 - 救急医療を行う診療科：内科/糖尿病・内分泌内科/神経内科/小児科/外科/脳神経外科/整形外科/産婦人科/眼科/耳鼻咽喉科
- ※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。
- ※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。
- ※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】562,000円(月額、手当・税込)、6,744,000円(年額、賞与・手当・税込)
【2年次】573,300円(月額、手当・税込)、6,879,600円(年額、賞与・手当・税込)
- 研修医に対する各種保険等の適用：協会けんぽ(全国健康保険協会管掌健康保険)、厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無：有り
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】無し
【その他】育児休業制度、育児短時間勤務制度

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：4名
- 応募資格：平成30年医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類：(1)臨床研修申込書(2)研修希望調査票(3)履歴書(4)卒業(見込)証明書(5)成績証明書(6)健康診断書(7)戸籍抄本
- 試験内容：(1)書類審査(2)面接
- 申込締切日：平成29年10月頃の予定
- 試験実施日：平成29年10月頃まで随時実施予定

■現在の研修状況と進路

- 研修中の人数：1年次 4名 うち女性 0名
2年次 0名 うち女性 0名
- 研修医の主な出身大学：弘前大学
- 当直回数(月平均)：8回(当直は2年次から開始。1年次副直(23:00まで)週2回)
- 研修終了後の進路：市立長浜病院
- 後期研修プログラムの有無：有り(内科(消化器)、糖尿病・内分泌内科、外科、整形外科、脳神経外科、眼科)

■申し込み、問い合わせ先

黒石市国民健康保険黒石病院
事務局 企画経営係 成田隆浩

036-0541 青森県黒石市北美町一丁目70番地
TEL 0172-52-2121(内線806) FAX 0172-52-5682
E-mail kkikaku@hospital-kuroishi.jp

●当院の臨床研修の特色

本プログラムは、青森労災病院を基幹型として、八戸赤十字病院および労災病院グループである横浜労災病院（横浜市）、千葉労災病院（市原市）、中部労災病院（名古屋市）を研修協力病院とし、六ヶ所村医療センター、保健所（三八、上北地域県民局地域健康福祉部保健総室）を研修協力施設とした臨床研修を行う、2年間の初期臨床研修プログラムである。

研修医に対して公平な臨床研修を提供するため、青森労災病院臨床研修委員会がプログラムの管理・運営を行い、定期的に研修の進捗状況を確認すると共に、問題点等を検討する。また、医師としての人格の涵養に努め、幅広い基本的臨床能力を修得し、頻度の高い疾患や病態およびプライマリ・ケアに対応できる医師を育成することを目的とする。

■プログラム紹介（参考：平成29年度開始プログラム）

- プログラム名／プログラム責任者：青森労災病院卒後臨床研修プログラム／玉澤 直樹
- 研修スケジュール 募集人数 4名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科		救急医療	内科		循環器内科			選択必修または自由選択			
2年次	地域医療	自由選択（到達すべき目標の仕上げ期間を含む）										

●協力型病院名（科目）

千葉労災病院（産婦人科）	八戸赤十字病院（精神科）
八戸赤十字病院（産婦人科）	横浜労災病院（救急医療、循環器内科）
中部労災病院（循環器内科）	

●協力施設

六ヶ所村医療センター	三八地域県民局地域健康福祉部保健総室	上北地域県民局地域健康福祉部保健総室
------------	--------------------	--------------------

■教育体制

各科連携のもとに1次～3次医療を含む急性期、急性期リハによる職場復帰までの豊富な症例が経験できます。更に、診断・治療の充実のために最新の医療機器（マルチCT、MRI、リニアック等）を整備しています。勤労者や業務上の負傷又は疾病に関する療養の向上及び労働者の健康保持増進に関する措置の適切な実施を図るために、勤労者医療総合センターを設置し、全国労災病院参加による労災疾病13分野の研究・開発・普及、健康診断による疾病の早期発見と予防活動に積極的に取り組んでいます。医学集談会は年3回、臨床病理検討会は年2回開催しています。

■メッセージ

●指導医から一言

日本有数の産業都市である青森県八戸市にある当院は、地域中核病院であり、研修医が身につけるべき基本的な能力と姿勢を、豊富な症例と心優しい指導医とスタッフに囲まれながら習得するのに最適な施設と自負しています。募集人員が少ないことが逆に研修医一人あたりが経験できる手技や症例が多い、指導医によるほぼマンツーマンの指導が受けられる、といったメリットになっていると考えています。

また、当院以外でも豊富な症例を経験出来るように、労災病院グループとしてのスケールメリットを活かし、横浜労災病院での循環器内科や救急救命センター、千葉ろうさい病院での産婦人科、中部ろうさい病院での循環器内科、といった様々な地域にある協力機関での研修も選択可能です。

●先輩研修医から一言

当院は総合医局のため医局での先生同士の垣根が低く、自分が救急外来で診た患者さんのその後の話を聞けたり、病棟で見ている患者さんについて他科の先生の意見を気軽に聞けます。

また、研修医の数が少ないので、研修スケジュールを立てる上でかなり自由度が高いです。協力病院である横浜ろうさい病院、千葉ろうさい病院、中部ろうさい病院、八戸赤十字病院にも研修に行く機会があり、他の病院に行くのはシステムや雰囲気、研修医も様々で自分の勉強してきたことのフィードバックになり、様々な考え方に触れるいい機会になっています。

少人数の研修病院は実際に研修をする前は不安もあると思いますが、勉強になる場面、刺激を受ける場面に出会える機会はその分多いと思います。大きな病院での研修をまず考えるとと思いますが、青森労災病院も一度考えてみてはいかがでしょうか？

■病院理念

「やさしく、あたたかい病院」

- ・患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の医療を行います。
- ・医療の質の向上を目指します。
- ・勤労者医療・地域医療における社会的責任を果たします。

■診療内容

- 診療の特徴、実績
 - ・高度な労災医療及び勤労者医療の提供
 - ・地域医療支援病院としての地域医療を展開
- ①八戸圏域地域リハビリテーション研修会
- ②八戸糖尿病スタッフ研修会
- ③オープンシステム運営協議会
- ④地域医療連絡協議会

●診療科・医師数

診療科名	消内	腫・内分	神	神内	小	外	整	形	脳外	心外	皮	泌	産	眼	耳鼻	リハ	放	麻	健康診断	病理	合計
医師数	5	4	-	1	1	4	4	1	1	2	1	3	-	1	-	1	1	2	1	1	34
指導医数	4	3	-	-	1	3	3	-	1	2	-	2	-	-	-	-	1	2	1	1	24

- 許可病床数：468床（一般 468床）
- 入院患者数（1日平均）：231.2名
- 外来患者数（1日平均）：696.7名
- 平均在院日数（一般病床）：17日
- 分娩件数：0件
- 救急医療の提供実績：○当院の救急医療の特徴
輪番による救急体制を市内の3病院と行っており、当院は毎月第2・4金曜日の夜と隔週の土曜日の夜、日曜日の昼・夜を担当し1日平均18.1人の救急患者を受け入れている。

- 医療法上の位置づけ：2次医療機関
- 救急取扱件数：6,607件
- 救急車取扱件数：1,089件
- 救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】470,000円（月額、手当・税込）、7,100,000円（年額、賞与・手当・税込）
【2年次】570,000円（月額、手当・税込）、8,300,000円（年額、賞与・手当・税込）
- 研修医に対する各種保険等の適用：組合健康保険、厚生年金、厚生年金基金、労働者災害補償保険、雇用保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無：有り
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】無し
【その他】医師短時間勤務制度

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：4名
- 応募資格：第112回医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類：(1) 研修医願書 (2) 希望調査票 (3) 履歴書 (4) 大学卒業見込み又は卒業証書 (5) 成績証明書
- 試験内容：面接
- 申込締切日：平成29年9月末頃の予定
- 試験実施日：随時

■現在の研修状況と進路

- 研修中の人数：1年次 1名 うち女性 0名
2年次 3名 うち女性 1名
- 研修医の主な出身大学：弘前大学
- 当直回数（月平均）：4回（指導医の下で副日当直）
- 研修終了後の進路：弘前大学
- 後期研修プログラムの有無：無し

■申し込み、問い合わせ先

独立行政法人労働者健康安全機構 青森労災病院
総務課

031-8551 青森県八戸市白銀町字南ヶ丘1番地
TEL 0178-33-1551 FAX 0178-33-3277
E-mail syomu@aomori.johas.go.jp

●当院の臨床研修の特色

- 👉 『平成 26 年度に新設開院！！』
青森県五所川原市にある新しい、綺麗な病院です。
- 👉 『学びたい姿勢があるなら、とことん 病院全体 でサポートします。』
現場主義をモットーに、どんどん役割を与えることで、現場で確実に対応できる研修医を育成しています。
コメディカルのバックアップが充実しているのも、当院の特徴です。
- 👉 『地域全体を考慮することができる、広い視野を持ったあたたかい医師へ。』
医師として成長していけるのは、指導医のみならず、病院全職員、そして患者さんやご家族の存在があることを忘れてはいけません。2年間、誰に対しても誠実な研修を行っていただきます。
- 👉 『医師としてはもちろんですが、人としても成長できます。』
コミュニケーション能力が自然に向上します。また、様々なストレスを抱えた時は、それを軽減する環境（人・場所）を確保している病院でありたいと思っています。
- 👉 『研修医の意見を基に新しいことに挑戦！！前向きな雰囲気日々前進しています。』
“今の状態に満足せず、より良い体制を整えること”が当院の目標です。

■プログラム紹介（参考：平成 29 年度開始プログラム） ※平成 30 年度開始プログラム変更予定あり

- プログラム名／プログラム責任者 : つがる総合病院臨床研修プログラム／高谷 俊一
- 研修スケジュール 募集人数 6 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	内 科						救急医療			必修(外科)		
2 年次	地域医療	必修(脳神経外科)	選択必修									

●協力型病院名（科目）

弘前大学医学部附属病院（各標榜診療科）	弘前市立病院（内科、外科、小児科、整形外科、臨床病理）
黒石市国民健康保険黒石病院（内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科）	
財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター（脳血管外科）	
医療法人整友会 弘前記念病院（整形外科）	

●協力施設

五所川原市国民健康保険市浦医科診療所	外ヶ浜町国民健康保険外ヶ浜中央病院	ファミリークリニック希望
一般財団法人医療と育成のための研究所清明会 鳴海病院	西北地域県民局地域健康福祉部保健総室	
東青地域県民局地域健康福祉部保健総室	中南地域県民局地域健康福祉部保健総室	

■教育体制

《 オリエンテーション 》講義形式を最小限にとどめ、コメディカル研修を行います。看護部・検査部はもちろん、栄養部で患者さんの給食を作るなど、全職種の業務を経験してもらいます。患者さんを支えるのは、医師だけでなく、コメディカルを含む病院全職員だということを実感し、他職種協働によるチーム医療への理解を深めてもらいます。その後は各研修において、すべての職員が研修医を育成する意識のもと指導にあたります。

《 研修・勉強 》症例発表会、CPC、各科診察法、心電図・エコー検査法、救急勉強会、研修医のためだけのシミュレーション研修（気管挿管・CVCカテーテル・超音波エコーガイド下穿刺・縫合、結紮・腰椎穿刺・膝関節注射・乳幼児医療）等。その他、県外の学会や研修会への積極的な参加も推奨しています。参加費と旅費を支給しますので、大いに勉強して来てください。やる気満々のあなたを応援します！！

■メッセージ**●指導医から一言**

《 教えることは学ぶこと 》
指導医の方も、指導を通して知識や技術を改めて見直しています。そうして、指導する・指導される良い関係が生まれています。総合診療・救急診療での正しい診断と治療ができる実力を持ち、急変患者にも基本的な対応ができるように努力するのはもちろんです。しかし、できないことがあった場合は、無理をせずできないと伝え、やれることはしっかりやる。できなかった事に対しては、新しい知識や技術を見に付け、前へ進む気持ちを持ち続けてほしいと思いながら、日々研修医を指導しています。一緒に仕事ができることを楽しみにしていますよ。

●先輩研修医から一言

- ☑ この地域ならではの人が好き
津軽の中でも奥津軽と呼ばれる五所川原市。「じょっぱり精神」の奥にあるやさしさと思いやりを感じられるあたたかい地域です。
- ☑ 研修医でもここまで地域に貢献できるんだ！と思った病院
とにかくたくさんの役割を与えてくれるので、現場で確実に対応できるようになります。期待に応えるためにその分勉強も必要ですが、責任感も芽生えます。
- ☑ コメディカルスタッフのサポートがすごい
医師とコメディカルの仲が良いのも当院の特徴です。困った時には手を差し伸べてくれるスタッフがたくさんいて、いつもサポートされながら日々成長しているのを身を持って感じます。

■病院理念

つがる西北五地域の中核病院として機能を充実させ、信頼される医療の提供をします。

■診療内容

- 診療の特徴、実績
 - ・【救急外来】の救急搬送患者は、高エネルギー外傷、心筋梗塞、CPA が多いです。
 - ・【内 科】では、低侵襲な検査から心臓カテーテル検査・治療などの高度なテクニックまで、幅広く学ぶことができます。
 - ・【麻 酔 科】では、エコーガイド下穿刺や疼痛管理も充実しています。また、気管挿管の件数も多いです。
 - ・【外 科】では、腹腔鏡を用いた手術が盛んに行われています。今後の更なる普及が期待されています。

●診療科・医師数

診療科名	1 内	2 内	3 内	外	麻酔	小児	産婦	整形	耳鼻	リウマチ	泌尿器	脳外	皮膚	眼	歯科
医 師 数	7	5	2	7	2	4	4	4	1	1	2	3	1	1	2
指導医数	5	4	1	7	2	2	2	3	1	1	1	2	-	1	1
病 床 数	394														

診療科名	精神	形成	神内	放射線	合計
医 師 数	2	-	-	-	48
指導医数	2	-	-	-	35
病 床 数	44	-	-	-	438

- 許可病床数 : 438 床（一般 390 床、精神 44 床、感染症 4 床）
- 入院患者数（1 日平均） : 304 名
- 外来患者数（1 日平均） : 652 名
- 平均在院日数（一般病床） : 14.6 日
- 分娩件数 : 391 件
- 救急医療の提供実績 : 二次救急医療機関として、救急患者の受入れを積極的に行っています。
全診療科の専門医が、オンコール体制で 2 4 時間バックアップしており、救急外来では研修科以外の専門医の診療にも立ち会えます。救急車対応から Walk in の患者さんまで幅広く診療しています。

- 医療法上の位置づけ : 2 次医療機関
- 救急取扱件数 : 10,650 件
- 救急車取扱件数 : 2,212 件
- 救急医療を行う診療科 : 全診療科

※上記データは平成 27 年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成 28 年 12 月 1 日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数 7 年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト (REIS) をご参照下さい。【<http://www.reis.jp/org/common/ad0.php>】

■処 遇

- 研修手当 ※実績等による目安 : 【1 年次】563,790 円（月額、手当・税込）、6,765,480 円（年額、賞与・手当・税込）
【2 年次】576,175 円（月額、手当・税込）、6,914,100 円（年額、賞与・手当・税込）
- 研修医に対する各種保険等の適用 : 社会保険、厚生年金、労災保険、雇用保険、病院賠償責任保険、医師賠償責任保険
- 医師賠償責任保険の扱い : 【病院加入】有り 【個人加入】有り ※補償金額に上限あり。更に加入する場合は自己負担となります。
- 宿舍の有無 : 有り
- 出産育児等の支援体制 : 【院内保育園の有無】無し ※民間保育所に委託し、延長保育【～午後 9 時】と休日・祝日保育を行っています。

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数 : 6 名
- 応募資格 : 第 112 回医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類 : (1) 臨床研修申込書 (2) 研修希望調査票 (3) 履歴書 (4) 卒業見込証明書 (5) 成績証明書 (6) 健康診断書
- 試験内容 : 書類審査、面接
- 申込締切日 : 平成 29 年 9 月中旬（予定）
- 試験実施日 : 平成 29 年 7 月～9 月上旬（予定）

■現在の研修状況と進路

- 研修中的人数 : 1 年次 4 名 うち女性 1 名
2 年次 3 名 うち女性 2 名
- 研修医の主な出身大学 : 弘前大学
- 当直回数（月平均） : 5 回（1 年次は副直(合計 5 回:平日 23 時まで 3 回+日当直フルタイム 2 回)、2 年次からフルタイム 4 回の当直開始になります。）
- 研修終了後の進路 : 弘前大学医学部附属病院
- 後期研修プログラムの有無 : 無し

■申し込み、問い合わせ先

つがる西北五広域連合 つがる総合病院
管理課経営企画係 鳴海【お気軽にご連絡ください】
037-0074 青森県五所川原市字岩木町 12 番地 3
TEL 0173-35-3111 FAX 0173-35-0009
E-mail keiei-kikaku@tsgren.jp

●当院の臨床研修の特色

当院は、青森県南の上十三地域二次保健医療圏に位置し、三沢市と周辺町村の約12万人の医療対象人口を支える中核病院です。

三沢市には、米軍及び自衛隊の航空基地が共存し、軍人や自衛隊員、隣接する六ヶ所村の核燃サイクル施設に勤務する方など、いわゆる転勤族も多く居住し、患者の医療知識のレベルも高く、東北の一地方都市としては異彩を放っているといえます。

当院の初期研修は、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身につけることを指導の基本理念とし、将来どの科になっても必要な診断学や検査手技、治療手技を身につけることで、病院総合医（仮称）を育てる基礎を身につけさせることに目標を定めています。病院総合医とは、家庭医と専門医の中間に位置する医師を想定しています。

このことは、学生のクリニカルクラークシップ（診療参加型臨床研修）から初期研修そして後期研修を一貫して行い、屋根瓦方式の研修システムを確立することで可能となり、臨床研修病院として当院が目指す姿であります。

20か国の外国人が居住する三沢市において、多様な患者層と症例は初期研修の場として、最適な環境といえます。院内で週に1回開かれる外国人講師による英会話教室も、コミュニケーションスキルの一助となり、医師としての人格のかん養につながっていきます。

■プログラム紹介（参考：平成29年度開始プログラム）

- プログラム名／プログラム責任者：三沢市立三沢病院臨床研修プログラム／星 克樹
- 研修スケジュール 募集人数2名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科						外科(1.5か月)・小児科(1.5か月)			救急		
2年次	整形外科	地域医療	精神科	選択科目								

●協力型病院名（科目）

弘前大学医学部附属病院（麻酔科、神経科精神科）	十和田市立中央病院（メンタルヘルス科）
-------------------------	---------------------

●協力施設

六ヶ所村地域家庭医療センター	上北地域県民局地域健康福祉部保健総室（上十三保健所）
三八地域県民局地域健康福祉部保健総室（八戸保健所）	堀口ひばり苑

■教育体制

最初に、院内各部署のオリエンテーションを行います。その後、研修委員会主催で、月1回のフォローアップ研修を行い、医療安全、感染対策、接遇等の研修を行っていきます。1年目の1月から救急の研修で副直業務を開始しますが、その前に各科専門医による各科救急の講義を10月から開始します。外来に関しては1年目の始めから初診医を担当し、仮説演繹法による診断を行います。1年目の1月までにWalk inの患者の初期診断ができることを目標とします。2年目の1月までには、救急車受診の患者の初期診断ができることを目標とします。

■メッセージ

●指導医から一言

当院では、将来県内の中小公立病院で勤務する医師のために必要な初期研修を行います。将来どの科を選択したとしても、県内の中小公立病院勤務であれば、日当直業務が必要となります。その際、自分の専門外の分野で苦勞している専門医が多いのは、事実です。当院では、中小公立病院の日当直で専門外の分野で苦勞することがなくなることを目標に初期研修を行います。診断学の基本となる仮説演繹法の修得に最も力を入れています。豊富な診断機器と仮説演繹法による診断学の実践により、安心、安全な初期診断を保証できます。平成28年からの基幹型臨床研修病院としてのスタートですが、クリニカルクラークシップや弘前大学の協力施設として初期研修の1年目の研修を行ってきた経験を活かし、目標達成につなげていきたいと思っております。

●先輩研修医から一言

医師として最初にどんな指導医に教えてもらうかに重点を置き、見学をして、当院を選びました。皆さんも病院見学をして、自分を直接指導してくれる人に会ってから研修病院を選びましょう。

当院では、研修医の内科外来枠があります。始めの6ヶ月の内科研修では、新患を毎日診察します。診察、検査、投薬など全てを行います。入院～退院も自分で行います。分からないことは相談し、毎日症例検討でフィードバックがあり、非常に勉強になります。4月から即実践です。興味がある方は病院見学と指導医の先生と面談に来てください。

■病院理念

三沢市立三沢病院は、質の高いサービスとより良いサービスを提供し、地域住民から「愛され信頼される病院」をめざします。

【基本方針】

- ◎良質な医療を提供する病院
地域住民の健康を守る自治体病院として、質の高い医療を提供します。
- ◎信頼される病院
信頼され安心される患者さん本位の医療を提供します。
- ◎やさしい病院
地域住民が利用しやすく、地域住民にやさしい病院をめざします。

■診療内容

●診療の特徴、実績

Common disease の救急患者は多く、初期研修に必要な症例は豊富に経験が可能で、将来県内の中小自治体病院に勤務する医師に必要な初期診断の基本的知識や基本的手技を十分獲得することができます。診断学の基本となる仮説演繹法の修得にも力を入れています。豊富な診療機器と仮説演繹法による診断学の実践により、安心、安全な初期診断を行います。研修医の希望により、消化器内視鏡検査や体外式ペースメーカーを含めた心臓カテーテル検査の手技も獲得可能です。

●診療科・医師数

診療科名	内科	脳	小児科	産婦人科	整形外科	放射線科	泌尿器科	皮膚科	眼科	耳鼻咽喉科	脳神経外科	形成外科	麻酔科	合計
医師数	8	4	4	1	2	1	1						1	22
指導医数	4	4	1	1	2	1	0						1	14

- 許可病床数：220床（一般220床）
- 入院患者数（1日平均）：180.4名
- 外来患者数（1日平均）：387.7名
- 平均在院日数（一般病床）：15.2日
- 分娩件数：382件
- 救急医療の提供実績：2次救急医療機関として、平成27年度は6,000件の救急患者を受け入れており、全診療科の医師が交代で診療にあたっている。

- 医療法上の位置づけ：2次医療機関
- 救急取扱件数：6,337件
- 救急車取扱件数：1,444件
- 救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト(REIS)をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】570,000円（月額、手当・税込）、6,840,000円（年額、賞与・手当・税込）
【2年次】600,000円（月額、手当・税込）、7,200,000円（年額、賞与・手当・税込）
- 研修医に対する各種保険等の適用：全国健康保険協会管掌健康保険、厚生年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無：有り
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】有り、365日・24時間保育

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：2名
- 応募資格：平成30年医師国家試験受験予定者
- 応募必要書類：(1)申込書 (2)履歴書 (3)希望調査票 (4)卒業(見込)証明書 (5)成績証明書
- 試験内容：(1)面接
- 申込締切日：平成29年9月末日
- 試験実施日：随時（申込者と相談のうえ調整）

■現在の研修状況と進路

- 研修中的人数：1年次 1名 うち女性 0名
2年次 0名 うち女性 0名
- 研修医の主な出身大学：琉球大学
- 当直回数（月平均）：3回
- 研修終了後の進路：
- 後期研修プログラムの有無：無し

■申し込み、問い合わせ先

三沢市立三沢病院
管理課

033-0022 青森県三沢市大字三沢字堀口164番地65号
TEL 0176-53-2161 FAX 0176-52-6023
E-mail mchkanri@r20.7-dj.com

●当院の臨床研修の特色

- ◇2年間の研修でプライマリ・ケアに要求される基本的な診療能力を習得し、同時に医師としてふさわしい態度、習慣、倫理を身につけることを目的としています。
- ◇2次医療機関としての役割を担っており、各診療科と連携して多くの症例が経験できます（毎日1次から極めて3次に近い救急医療まで対応しています）。
- ◇実際の災害現場を想定した災害救助訓練にも参加可能で、通常の研修とは違った経験もできます。
- ◇各年次の研修医数が多すぎないため、多種多様な疾患・病態に対してじっくりと指導が受けられます。
- ◇院内研修・症例発表会・カンファレンスなどを多数開催し、研修教育関係の行事にも力を入れています。
- ◇ベテラン医師から若手医師まで、熱意あふれる指導医（上級医）が研修医の皆さんをサポートします。
- ◇看護師やコ・メディカルスタッフとも活発なコミュニケーションが取れるため、チーム医療の習得・実践には最適な環境です。
- ◇大学院に通いながらの研修も可能です。
- ◇学会への参加や各種セミナー（講習会）の受講にも配慮しており、旅費や受講費の補助も行っています。

■プログラム紹介（参考：平成29年度開始プログラム）

- プログラム名／プログラム責任者：八戸赤十字病院臨床研修プログラム／山形 宗久
- 研修スケジュール 募集人数 10名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	内科（オリエンテーション含む）							外科	麻酔科	救急部門			
2年次	産婦人科	小児科	精神科	地域医療		選択科							

●協力型病院名（科目）

岩手医科大学附属病院（救急部門）	八戸市立市民病院（救急部門）
------------------	----------------

●協力施設

メディカルコート八戸西病院	南部町国民健康保険名川病院	三戸町国民健康保険三戸中央病院
田子町国民健康保険町立田子診療所	かねた内科耳鼻科医院	三八地域県民局地域健康福祉部保健総室（八戸保健所）
青森県赤十字血液センター		

■教育体制

◇各診療科をローテートし、研修診療科の責任者の下で指導を受けます。また、プログラム責任者も研修状況を随時チェックし、研修医の教育を総合的にサポートします。

◇各診療科での研修終了時に指導医・プログラム責任者・研修医とで合同カンファレンスを行い、研修に関する評価や確認を行います。

◇研修診療科では症例提示や各種カンファレンスなどが随時行われるほか、医局朝会やC P C、医学集談会での症例発表があります。

◇院内講習会も多数開催される他、大学等の講師や各診療科指導医によるセミナーも随時実施しています。

◇研修初日から2週間をオリエンテーションとし、各部門（看護部・薬剤部・検査技術課・栄養課・事務部）でのレクチャーや実習に臨みます。また、医療安全や感染対策に対する研修や、精神科医師によるメンタルヘルスケアも組み込んでいます。

■メッセージ

●指導医から一言

設備的な面では、研修医、指導医共に、臨床、生活を送る環境が整って居り、総合病院としての基幹診療科も揃って居る。

何より、八戸市の輪番救急体制の中で、多数の救急患者を経験出来る事が、初期研修に必要とされるプライマリーケアの能力を着実に高めて行って居る。

此の様に比較的恵まれた環境が、周囲に備わっては居るが、更に研修医が成長出来る様、研修病院側として、我々も逐次カリキュラムの改変やフィードバック等を行っている。

そんな中、当院の研修医からは、のびのび研修に励んでいる様子が伺え、その事が逆に指導医を和ませる。また、指導医はそれぞれの実臨床に埋没しがちな傾向にあったが、研修医を指導する事から波及して、指導医自体の学会、論文作成等の活動も増え、御互いに良い刺激を受けていると言えよう。当院の場合、相乗効果が、研修医、指導医の間に存在し、充実感が、研修医の表情に自信に満ちた物に変えて行って居る様で有る。

●先輩研修医から一言

私は、八戸赤十字病院で研修医をしている先輩にお話を聞き、興味を持って見学や高次臨床実習を八戸赤十字病院で行いました。多忙な中、学生の私に丁寧に对应して頂き、また、様々な事を経験させて頂きました。整備された病院内、患者さんに対する医師・看護師・コメディカルスタッフの親切的な対応を肌で感じ、八戸赤十字病院で初期研修する事を決めました。研修が始まってからは慣れない事ばかりで失敗もありましたが、2年次研修医の先生から相談を聞いてもらったり、沢山助けて頂きました。日々仕事をこなしていくのがやっとなので、失敗も多々ありその度にスタッフの方々には迷惑をかけてしまい落ち込むこともありましたが。未熟な私達に対して、指導医の先生方は一人の医療人として時に厳しく、時に優しく熱心に指導して下さり、日々多くのことを学ぶ事が出来ました。また、私達のあいまいな指示やカルテ記載で看護師の方々には非常に迷惑を掛けてしまいましたが、丁寧に指示の確認をして下さったスタッフの皆さんに助けられました。皆さんのおかげで2年間の研修で少し成長できたかなと思います。

この2年間で世間知らずな私達を、医療人として成長させて頂いた事かけがえのない宝物です。この宝物を忘れず医師として日々精進していきたいと思っています。

■病院理念

私たちは、地域の皆様の生命と健康を守るため、赤十字の理念に基づいた信頼される医療を実践し、「あなたの病院、わたしの病院、そして私たちの病院」として、誇れる病院づくりに最善を尽くします。

■診療内容

●診療の特徴、実績

◇病床数 434床（一般 374床・精神 60床）、24の診療科からなる当院は、急性期医療を中心に行う地域の中核病院です。赤十字の理念にもとづいた信頼される医療を実践し、救急医療の充実、地域医療の発展、そして高度な医療の提供に努めています。

◇災害救護班を7個班常設し、災害発生時に即応できる体制を整えています。

◇平成21年9月に脳卒中センターを開設し、急性期脳卒中疾患に対し積極的な治療を行っています。

●診療科・医師数

診療科名	消	循	糖尿	呼	内	血内	神内	外	心外	脳外	整	泌	麻	精	小
医師数	2	5	1	3	2	3	2	5	0	4	3	2	5	2	3
指導医数	2	4	1	2	1	1	1	2	0	3	1	2	2	2	1

診療科名	産婦	耳鼻	眼	皮膚	放	検査(病理)	合計
医師数	4	0	0	0	1	1	48
指導医数	2	0	0	0	1	0	28

- 許可病床数：434床（一般 374床、精神 60床）
- 入院患者数（1日平均）：343.3名
- 外来患者数（1日平均）：808.8名
- 平均在院日数（一般病床）：13日
- 分娩件数：328件
- 救急医療の提供実績：救急医療は当直及び各科の待機医によって対応しています。診療圏のほぼ全域から救急患者を受け入れるため、一次から極めて三次医療に近いものまで扱っています。（市内救急医療施設病院群輪番病院・精神科救急指定病院（青森県）1日平均救急患者数 21人（救急車搬送件数 8件）

●医療法上の位置づけ：2次医療機関

●救急取扱件数：7,509名

●救急車取扱件数：2,902名

●救急医療を行う診療科：全診療科

※上記データは平成27年度の実績です。また許可病床数、医師数、指導医数及び病床数は平成28年12月1日現在です。

※「指導医数」は「医師数」のうち臨床経験年数7年以上で、指導医講習会受講済みである医師の数です。

※診療内容に関するその他のデータについては、臨床研修プログラム検索サイト (REIS) をご参照下さい。【<http://www.reisjp.org/common/ad0.php>】

■処遇

- 研修手当 ※実績等による目安：【1年次】508,000円（月額、手当・税込）、6,100,000円（年額、賞与・手当・税込）
【2年次】766,000円（月額、手当・税込）、9,200,000円（年額、賞与・手当・税込）
- 研修医に対する各種保険等の適用：全国健康保険協会管掌健康保険、厚生年金、厚生年金基金、労働者災害補償保険、雇用保険
- 医師賠償責任保険の扱い：【病院加入】有り 【個人加入】任意
- 宿舍の有無：無し（但し、病院借上げアパート有り（賃借料・水道光熱費全額病院負担））
- 出産育児等の支援体制：【院内保育園の有無】無し（但し、近隣に民間保育園有り）
【その他】無し

※実際に支給される額は各種手当等の変動により個人差があります。詳しくは、各施設担当者にお問い合わせ下さい。

■研修医募集・応募方法・試験概要

- 募集予定人数：10名
- 応募資格：第112回医師国家試験受験者で日本医師臨床研修マッチングプログラムへ参加する者
- 応募必要書類：(1)研修申込書（当院ホームページよりダウンロード可）(2)履歴書（指定様式（当院ホームページよりダウンロード可））(3)大学卒業（見込み）証明書 (4)成績証明書
- 試験内容：面接
- 申込締切日：平成29年9月末日
- 試験実施日：随時（申込者と相談の上調整）

■現在の研修状況と進路

- 研修中的人数：1年次 9名 うち女性 4名
2年次 7名 うち女性 3名
- 研修医の主な出身大学：岩手医科大学、福島県立医科大学
- 当直回数（月平均）：4回（当直は1年次の5月から開始。但し、指導医の下副直として勤務する。）
- 研修終了後の進路：千葉大学医学部付属病院、八戸赤十字病院
- 後期研修プログラムの有無：有り（消化器科、脳神経外科、神経内科）

■申し込み、問い合わせ先

八戸赤十字病院 事務部総務課

039-1104 青森県八戸市大字田面木字中明戸2番地
TEL 0178-27-3111 FAX 0178-27-3121
E-mail 130ex001@hachinohe.jrc.or.jp